

経営比較分析表（令和5年度決算）

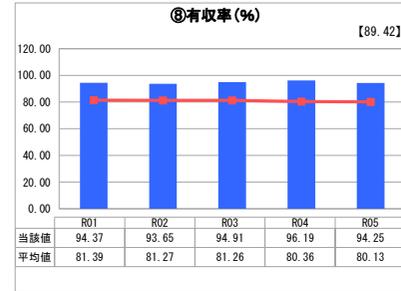
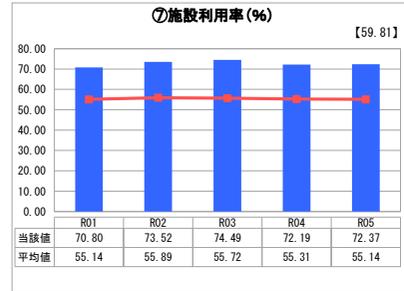
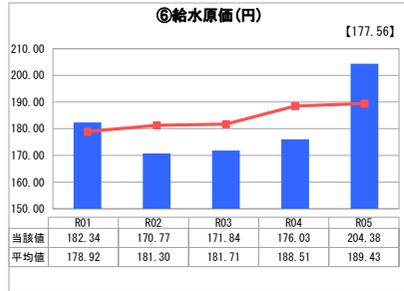
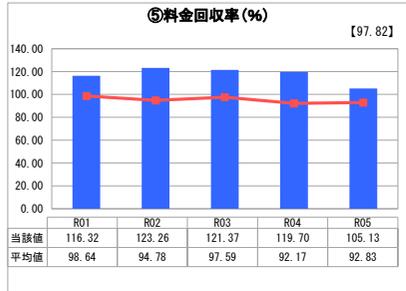
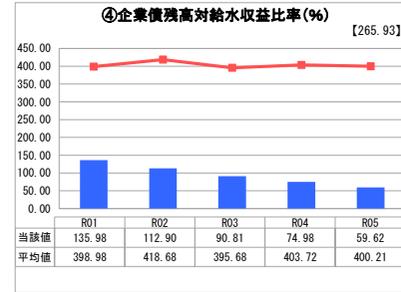
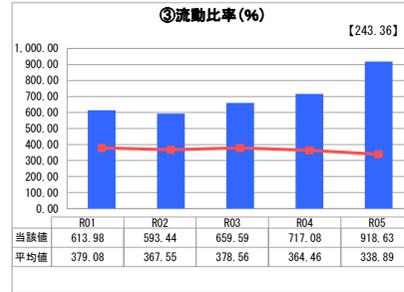
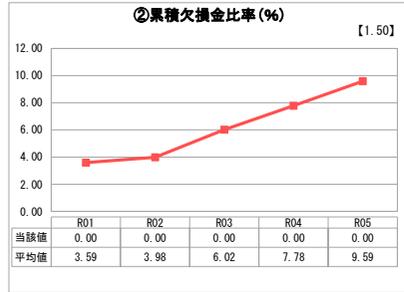
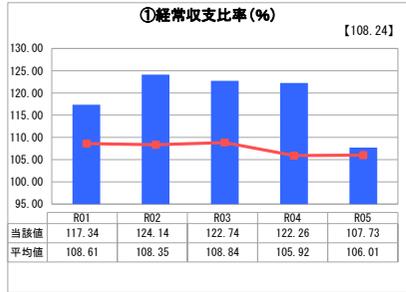
千葉県 長門川水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	その他
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	92.15	13.62	4,070	

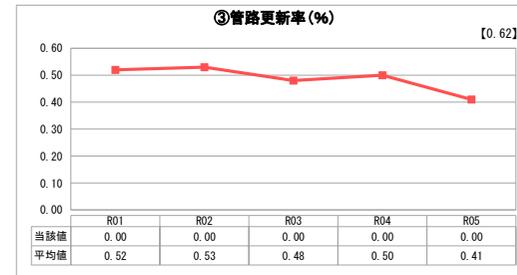
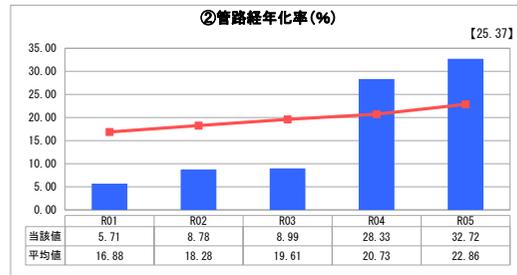
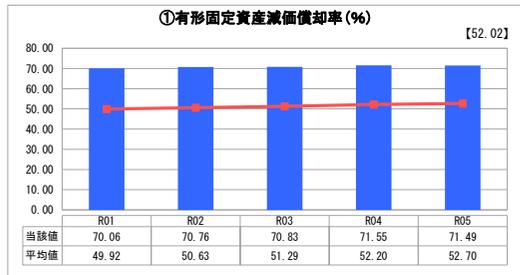
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
17,819	36.50	488.19

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率は100%を超え黒字を維持しております。
- ②流動比率は類似団体平均値を上回っていることから経営状況は健全である。
- ③流動比率は類似団体平均値より低い状況ですが、施設等の老朽化による更新事業を予定しているため今後上昇する見込みです。
- ④企業債務高は、類似団体より低い状況ですが、料金回収率は100%を超え、料金収入で費用を賄っています。
- ⑤給水原価の増加は、老朽施設の更新、物価高騰の影響を受けた支出の増加によるものです。
- ⑥施設利用率は類似団体と比べると高いが、給水人口の減少や節水器具等の普及により配水量が減少傾向にあります。
- ⑦有収率は、類似団体より高い水準で推移しています。高い有収率を維持するため、漏水の多い地区の配水管の布設替を実施しており、また、漏水の通報等に対して速やかに修理をし無駄な水を発生させないようにしています。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率は、法定耐用年数に近い施設等が多く、類似団体平均値と比べると高くなっている。これは、必要な更新を先送りしてきたことが伺える。
- ②管路経年比率は、類似団体平均値を上回っており、拡張事業で布設した配水管が法定耐用年数を超え、増加する傾向にある。
- ③管路更新率については、過去5年において管路は未更新であるため、計画的な更新が求められている。

全体総括

今後の見通しとしては、大幅な収益の増加が見込めない中で、施設の老朽化、耐震化等による更新需要が高まることが想定される。そのような状況の中でも水道事業を持続可能とするため、経営戦略などに基づく計画的・効率的な事業経営を実施していくことが重要である。また、将来にわたって経営の健全性を維持するため、水道料金の改定を検討する必要がある。